

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今月は例年になく夏日が長期化しているため、夏物商材の動きが特に活発化している。酒屋や自販機ではビールを始めとした各種飲料水の売行きが伸びているほか、外食ではそば屋の売上が伸びている。衣料品ではTシャツ、ショートパンツなどの軽衣料が男女ともに伸び、前年比105～115%の伸びがみられた。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・夏休み中ということもあるが、来客数が増加している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・猛暑の影響で夏物衣料が堅調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・猛暑の影響もあり、飲料やビール等の売上が好調であった。販売量も前年比102%と前年を上回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・8月は猛暑の影響で夏物商材の動きが好調であった。特に飲料・アイスは2けた以上の伸びがみられた。衣料品も月前半に大きな伸びがみられた。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・猛暑による特需で夏物家電がかなり売れている。エコポイント制度の効果も拍車をかけている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・例年になく猛暑の影響で、エアコンや扇風機などの夏物家電の売行きが好調で、全体の売上が底上げしている。
		観光型ホテル（経営者）	お客様の様子	・従来の客層である滞在型の富裕層が戻ってきている。まだ財布のひもが大きく緩んできていないが、レストランなどの高額メニューも売れ始めている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・円高の効果もあり、海外旅行はヨーロッパやハワイ、グアム方面を主流として、取扱額が前年比149%となっている。また、国内旅行については、道内や東京近郊を主流として、取扱額が前年比107%となっている。一方、業務性の旅行については、前年比93%にとどまっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・8月の取扱額は、国内旅行が前年比98%、海外旅行が前年比122%となっており、全体では前年をやや上回っている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの売上は、3か月前に比べると10%くらい伸びている。売上は月によって左右されるので一概には言えないが、少しずつ良くなっている傾向がうかがえる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・タッチ型のスマートフォン端末が個人・法人問わずに好調である。また、コンテンツサービスへの加入者も伸びている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・北海道観光が繁忙期に入ったこともあり、3か月前に比べると、来客数は158.9%と伸びている。車を利用した個人客が減少しているものの、定期観光バス利用客が増加傾向にある。
		パチンコ店（役員）	来客数の動き	・3か月前に比べると、イベント等に対する反応が良くなってきている。客単価は相変わらず低い水準で推移しているが、新たな顧客が増加してきている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・最近の株安、ドル安など、景気に対する不安感が消費にブレーキをかけている。また、残暑が厳しく、客がなかなか秋物に目を向けてくれない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順のせいで気温が高いことから、いまだに夏物を着る客が多く、シーズン物や秋物への購買意欲が全くみられない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏の最大イベントがあったにもかかわらず、今月の来客数はそれほど増加しなかった。イベント期間中においても、天候等の影響もあり、商店街を訪れる客は前年比で3割近く減少した。また、5月には海外からの旅行者も多くみられたが、今月は海外及び道内外からの旅行者も期待したほどの数とはならなかった。	

一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・観光地に店を出しているが、観光客のうち15%程度が中国人という感じがある。中国人の買う物は限定されているため、なかなか当店の主力商品である昆布は売れないのが現状である。
一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月の売上自体は悪くないが、夏場の繁忙期という季節要因を取り除くと、3か月前とほとんど変わらない水準であった。また、得意先の飲食店がこのところ5～6軒閉店していることも、売上の不振につながっている。
百貨店（売場主任）	単価の動き	・暑い日が続いていることもあり、単価の高い秋物の動きがあまり良くない。逆に低単価の夏物のセール品ばかりが動いている。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・今月は猛暑が続いているため、食品のなかでも水物が非常に売れている。また、婦人服・紳士服ともに半袖・カットソー・ブラウス・パンツの動きが顕著である。特にスカートは今月に入って前年比120%の販売量となっている。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・お盆を過ぎても気温が下がらないため、秋物の動きが鈍い。
スーパー（役員）	単価の動き	・客単価は前年比99.5%となり、前月より1ポイント上昇したものの、3か月前よりは3ポイント低下している。例年になく猛暑が続いたことから、来客数の増加を期待していたが、豪雨など北海道ではあまり例のない気象現象がみられたことにより、来客数が今一つ増えなかった。
スーパー（役員）	お客様の様子	・気温が上がり、天候にも恵まれたことから、旧盆までは帰省・行楽で人が動き、夏物の売上也好調であった。しかしながら、その後は一転して悪くなっている。残暑が厳しく、例年売れる秋物の売上が大幅ダウンとなっている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は猛暑の影響で、夏物商材がお盆以降も売れ続けている。客の来店頻度も高くなっているが、低単価商品に集中して購入する傾向が強まっており、以前よりも単価の低下幅が大きくなっている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・展示会等をやっても客が集まりづらく、集まってきた客もなかなか商品を買ってくれない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・減税や補助金のおかげで自動車の販売量が増加しているが、今月は補助金が確実に間に合う最後の月であったことから、客の意識も特に高かった。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑でどこにも外出したくないとは思うのか、景気自体はあまり変わっていない。一方、処方せん客の来店頻度は遅れ気味となってきている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・依然として自動車用燃料の販売量が減少傾向にある。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年よりも販売量がやや減っているが、大きくは変わっていない。暑い日が続き、夏休みのレジャーなどでお金を使ってしまったためか、飲食店には足が向かないようだ。知り合いの店では、内食が浸透してきたことで、例年よりも売上がやや減少したと聞いている。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・景気自体は変わらないが、近年、お盆休みの込み合う時期を避けて、月後半に夏休みを取り、北海道を旅行する人が増えている。
タクシー運転手	来客数の動き	・依然として電話注文数が減少している。前年比で見ると、来客数も減少している。
通信会社（社員）	販売量の動き	・客の様子をみると、景気が上向きになる要素がないため、契約に対して相変わらず慎重な態度を取っている。
観光名所（役員）	来客数の動き	・4～7月までは毎月、来客数が前年を上回るなど、景気は良い方向へ動いていたが、8月は他地域での高速道路料金無料化の社会実験の影響に加えて、お盆時期の天候不順もあり、来客数に伸びがみられず、前年並みの数字を確保するのがやっとであった。
美容室（経営者）	お客様の様子	・世の中の状況に慣れて、現状維持で生活をするという空気が強くなってきた。余計なことにお金を使わずに地道に生活をするパターンが定着してきている。

	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期だが、ツアー客が減少していることから、引き続き前年を下回って推移している。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売戸数が回復傾向にあったが、ここに来てモデルルームへの来訪客数が伸び悩んでいる。お盆休みや夏休みが影響しているのか、回復のペースが鈍化している。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・以前は50万円以上の商品が月に5～6点売れていたが、ここ数か月は半減している。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3～4月にかけて買上客数が前年比102～103%と回復していたが、5月以降は前年を下回り始めている。特に8月は前年比93.2%となっており、6～7月の前年比96.5%と比べて減少幅が拡大している。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年にない猛暑が続いていること、高速道路料金無料化の社会実験の対象から外れた地域であることなどから、夏休み期間への影響を懸念したが、来客数、売上ともほぼ前年並みであった。週末は満席となるが、平日は空席が目立つ。	
	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・本州ツアー客を中心に宿泊客が減少しているものの、海外客でカバーしている。旅行会社からの料金値下げ要求やインターネット販売商品の増加により、客単価が継続的に下落している。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月は暑い日が多く、お盆前までは前年並みの売上であったが、お盆を過ぎた中旬以降は、前年よりも売上が大きく減少している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・7～8月と来客数が減少している。前年と比較しても減少傾向にある。	
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・問い合わせを含めて、客の動きはみられるものの、なかなか成約につながらない。客が融資を受けられないケースも増えてきている。	
悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・気温が高いことから、今まで好調だった衣料品が前年実績を下回ってきている。7月までは前年比105%以上で推移していたが、今月は秋物衣料品の動きが悪く、前年比98%程度と低迷している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量の前年比の動きをみると、3か月前よりもわずかではあるが上昇している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・今まで在庫を増やさずに我慢してきたが、ここにきて鉄骨加工の中型物件が決まり出し、消耗資材を中心に売行きが良くなっている。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中規模の請負物件に動きがみられる。住宅関連の需要も底堅い。
		金属製品製造業（経営者）	それ以外	・周辺企業で平年よりも休みが多い、残業が少ないなどの話が聞かれる。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・全国的に猛暑が続いていることから、先月に引き続き清涼飲料品の荷動きが順調に推移している。また、猛暑のなか、牛乳の消費量が伸びていることから、8月後半より生乳の道外出荷量も増加している。これは学校給食が再開したこと、本州エリアの牛が夏バテで生乳の生産量が減少していることなどが要因となっている。あわせて加工用の脱脂粉乳も使用量が増加しており、輸送量が増加している。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・客先から取引状況の話を見ると、依然として価格下落圧力が継続している。ただし、受注価格はすでに底値であり、結果的に横ばいとの声が多い。景況感としては、やや悪いなかでの横ばいでの推移がここ3か月程度続いている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事が大幅に減少しており、基幹産業の土木建設業界は不振となっている。政策効果の続いている自動車・家電販売業界、リフォーム関連は堅調である。観光関連は、中国人観光客が増加しているほか、天候にも恵まれたことから、持ち直している。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	競争相手の様子	・商材が不足しており、競合が激しくなっている。	

やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年、夏場は販売量がやや減少する時期であるが、今年は猛暑が影響して例年以上に販売量が減少している。	
	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・公共工事の削減や民間設備投資の減少から、新規建築工事はほとんどなく、数少ない工事での低価格受注が日常的となっている。体力保持のため、選別営業まで強いられている。	
	司法書士	取引先の様子	・土地建物の売買、建物の建築ともに減少している。	
	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆しが見られない。株式相場の下落、円高など悲観的要素が多く、高額商品である土地建物の動きが悪い。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や売上が減少している。	
悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・この2年くらいの間に受注環境は随分と悪くなっているが、同業他社の話を聞くと、業界の受注量自体が激減している。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数は前年に比べて13%ほど増加している。宿泊業の伸びが特徴的で、中国人を始めとしたアジア人観光客の入込により、今後の需要も見越したフロントスタッフや清掃スタッフの募集が増えている。また、暑さの影響からかスーパー等の総合小売店や衣料系小売店の求人増加も目立っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比106%と今月も上向きで推移した。札幌・東京への派遣業種の回復はまだないが、小売系、医療系、そして、農繁期を迎える食品加工製造系の求人が大きく前年を上回っている。特に医療系は前年比164%と大きく伸びており、なかでも介護職員の求人が多くを占めている。介護職員は元々慢性的に応募者が少ない職種ではあるが、今月は特に介護職員を求める施設が目立った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は7.6%増加し、6か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は14.4%増加し、6か月連続で前年同月を上回った。
		職業安定所（職員）	それ以外	・有効求人倍率が0.36倍となり、5月と比べて0.05ポイント上昇した。
変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・求人数はパートを中心に増加傾向にあるが、これは正社員の採用の手控えを表している。雇用調整の動きは大企業だけではなく、中堅企業においても実施され始めており、これも企業の経営状況の厳しさを表している。中途採用の手控え感もいまだ強く、雇用環境は決して回復しているとは言えない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が若干増加傾向にあるが、農業の1次生産及び2次加工など、季節要因による人手不足が要因であり、必ずしも産業全体での動きとなっている訳ではない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人倍率は3か月前と同じく低い水準にある。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年を7.3%上回った。一方、新規求職者数は前年を12.2%下回った。月間有効求人倍率は0.45倍であり、前年の0.34倍を0.11ポイント上回っている。	
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・例年、8月は盆時期を除き、少ないながらも所定の説明会、選考会が展開されていたが、今年はこの動きが停滞しており、それにあわせて学生の動きも鈍くなっている。学生が夏期休業に入る8月は学生が帰省する時期であるが、採用側のUターン採用は、すでに5月のゴールデンウィークに選考が推し進められ、早い時期に採用を募引きしていたことがうかがえる。	
やや悪くなっている				
悪くなっている	-	-	-	